

令和4年度 東京都入札監視委員会第3回制度部会 審議概要

開催日及び場所	令和5年1月25日（水） 東京都庁第一本庁舎特別会議室N1
出席委員	<p>東京大学大学院工学系研究科教授 堀田昌英 愛知大学地域政策学部地域政策学科准教授 斉藤徹史 （元）品川リフラクトリーズ（株）代表取締役副社長 仲田裕一 弁護士（五十嵐・渡辺・江坂法律事務所） 原澤敦美 （敬称略・計4名）</p>
審議事項	<p>(1) 民間の技術を活用した契約方式について (2) 総合評価方式における環境配慮の取組について</p>
議案の概要	<p>(1) 都で導入を検討している ECI 方式について、導入の背景や制度の概要、制度設計における留意点等について説明を受けた。 (2) 総合評価方式における環境配慮の取組の拡充について、現在の取組状況や新たに評価する認定制度の概要等について説明を受けた。</p>
委員会による審議結果報告	<p>(1) 及び (2) について、委員からの意見を踏まえて、今後の制度設計に生かしていくよう、引き続き事務局において検討を進めることとする。</p>
事務局からの報告	<p>(1) 及び (2) について、事務局案の説明を行った。</p>
委員からの意見等の概要	<p>審議事項 (1) について</p> <p>【委員からの質問等】 技術協力業務委託契約と基本協定は同時期に結ぶものなのか、その関係性について教えてほしい。</p> <p>【事務局の回答】 技術協力業務委託契約は、あくまで技術協力業務単体について通常通りの契約書をもって委託契約を結ぶものである。一方、基本協定は、技術協力業務の先にある工事契約も見据え、約束を結ぶものである。非常に近いタイミングではあるが、技術協力業務の契約後、速やかに協定を結んでいく。</p> <p>【委員からの質問等】 効率化のために工事をまとめて発注ということもあると思うが、同時に競争性にも留意すべきである。できるだけ競争環境を作るために工事の範囲を狭めていただきたい。</p> <p>【事務局の回答】 公共調達なので原則として分離分割で発注しており、当然に今後も続けていくが、どうしても ECI の採用が必要なロットに限って適用していきたい。適用の妥当性については、技術審査委員会での議論や学識経験者の意見を聞きながら、見極めていく。</p> <p>【委員からの質問等】 技術協力に関する頭出し的なことも審査の対象になると思うが、その際の</p>

秘密の保持について、どのような対応を取るのか。

【事務局の回答】

技術提案にあたっては、特許権を含んだ技術の活用が提案されることも十分考えられる。そういった内容が他の事業者に伝わることがないように、しっかりと定めていくとともに、条例などにも沿いながら制度設計していく。

【委員からの質問等】

他の公共発注者でも事例が蓄積してきており、課題についてもいろいろ整理されてきていると思う。そういった内容やいただいたご意見を踏まえ、最終的な制度設計につなげていただきたい。

審議事項 (2) について

【委員からの質問等】

「環境」「雇用・産業」「仕事と家庭の両立支援」「女性活躍」の中で、前回の制度部会において「女性活躍」を別枠としたが、働き方など雇用に関するものという観点から「環境」を別枠にする方が自然な気がするが、いかがか。

【事務局の回答】

「女性活躍」については、期間を限定した取組を進めていくために別枠とした。今後、先まで含めて別枠という考えはなく、あくまで社会性としては一つのカテゴリーだと考えており、引き続き技術力と社会性のバランスに配慮しながら取り組んでいきたい。

【委員からの質問等】

これまでのとうきょう森づくり貢献認証制度による加点に加えて今回の SBT やエコ・ファースト制度による認定も加点項目とするのか、あるいは、とうきょう森づくり貢献認証制度による加点は止めるのか、どちらか。

【事務局の回答】

森づくり貢献認証制度を残したまま、SBT やエコ・ファースト制度による認定を加えていこうと考えている。現在、環境への配慮実績がそこまで活用されていない実態もあるので、今回の追加により幅を広げていきたい。

【委員からの質問等】

環境配慮の取組は拡充しつつ、公共調達に関連する様々な取組も踏まえ、進めていただければと思う。

以上

[その他]

特になし